

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 403 号 平成 24 年 9 月 28 日

## 不思議な不思議な、かぐや姫

最近、テレビで流される CM で、何度見ても気になる CM があります。テレビ CM にいちいち目くじら立てるのは、いささか大人げないとは思いますが、でも「変なものは変」と思いながら、つい見てしまいます。そういう意味では、この CM は成功なのかも知れません

その CM というのは、次のようなものです。

かぐや姫 「私は月へ帰ります。」  
おじいさん「債務が残っているぞ。」  
おばあさん「〇〇に相談したら。」  
かぐや姫 「月からは遠いし。」  
ここで、〇〇法律事務所からのお知らせ。  
「債務に関するご相談は、何度でも無料」

僅かに 15 秒ほどの CM ですが、この CM の眼目は、「債務に関する相談は、何時でも、何処からでも無料で応じます」という事だと思います。しかし、それ以前に、かぐや姫とおじいさん、おばあさんとの会話を聞いて、どうも居心地の悪さを感じてしょうがありません。

その一番の原因は、かぐや姫が自分の債務について認識していない、というより返済する意思が全く感じられないという事です。

月からの命令で帰らざるを得ないとしても、自分に債務が残っているからどうしようと悩んでいるようには見えません。それどころか、おばあさんが「〇〇に相談したら」とアドバイスしても「月からは遠いし。」と意にも介していません。

これでは、折角のかぐや姫も、能天気を通り越して人格的にオカシイのではないかと感じてしまいます。

「借りたものは返す」というのがまっとうな考えで、借金を抱えている本人に債務を法律的にきちっと解決したいという意思がなければ、いくら法律事務所でも手を差し伸べる事は出来なんでしょう。

最近では、法律事務所による債務整理に関する CM が目につきますが、それだけ、

借金返済に苦しんでいる人が多いという事だと思いますが、特に問題なのは、返しても返しても借金が無くならない、あるいは返済し過ぎ（過払い）というケースが相当あるということです。

こうした問題を解決する上で債務整理は非常に有効で、実際、債務整理をすることにより、借金が減額されたり、支払いが免され、あるいは払い過ぎた金利を取り戻したという人も少なくありません。

とはいっても、一体「過払い」というのはどういう事なのか疑問になりますね。

貸金業者がお金を貸す場合は、お客さんから利息を頂くことになりますが、その場合の利息の上限は、利息制限法という法律によって金額に応じて15~20%と定められていますので、それ以上の金利を取る事は許されません。従って、仮に、利息制限法の上限を超えた金利をお客さんが払ったとしても、貸金業者にはそれを受け取る権利はありませんから、返還しなければならない事になります。

それが「過払い」の構造ですが、どうして社会問題となる程にこの「過払い」問題が発生しているかということ、いわゆる「グレーゾーン金利」の存在があるからです。

この「グレーゾーン金利」というのは、利息制限法の上限金利と出資法の上限金利との差をいいます。2010年6月まで、出資法における上限金利は29.2%とされており、それ以上の金利を課すると刑事罰の対象となっていました。しかし、逆にいうと、利息制限法の上限金利を超えても出資法の上限金利を超えなければ刑事罰の対象にならないという事ですから、民事上は無効にもかかわらず、利息制限法の上限金利を超えた高利を設定し、暴利を貪る貸金業者が後を絶ちませんでした。これが「グレーゾーン金利」問題といわれるものです。

なお、2010年6月18日以降出資法の上限金利は利息制限法の上限金利に抑えられましたので、現在は「グレーゾーン金利」は存在しません。

かぐや姫が返せない程借金をしていたとなると夢も壊れますが、もしかしたら払い過ぎているかも知れませんが債務整理を試みる必要はあるでしょう。

貸金業者が、相手の弱みに付け込み、違法に高い金利を設定する事は許されませんが、お金を借りようとする方も、制度について情報を集め、自己防衛する事が重要です。

まずは「返せない借金はしない」こと、そして「借りたものは返す」という、極当たり前の事を大前提にしなければ、社会のルールは保てません。

という訳で、件のCMについて次のようにしてみたらというのが私の提案です(もっとも、CMとしては面白くないかも知れませんが)。

かぐや姫 「私は月に帰らなければなりません、債務が残っています。一体、私はどうしたら良いのでしょうか。  
(さめざめと泣く)」

おじいさん「〇〇に相談したら。」

かぐや姫 「月に行っては相談できませんわ。」

おばあさん「フリーダイヤルなら、どこからでも無料で相談できるのよ。」

(塾頭：吉田 洋一)